

中野山遺跡（第11次）No. 8

こんなものがみつかりました！ その3 しゅうせきろ 集石炉

所在地：四日市市北山町

位置情報URL：<http://www.gis.pref.mie.lg.jp/mmm/index.html?z=128&ll=35.047974537037035,136.58725141242937>

今回は集石炉を紹介します。中野山遺跡ファンのみなさんにとっては前回の煙道付炉穴と同様に、すでにお馴染みとなっている集石炉ですが、今年度もやはりみつかりました。

中野山遺跡の集石炉は出土した土器から縄文時代早期のものであることが分かっています。今回は集石炉の掘りかたを簡単にご紹介いたします。

集石炉から出土した炭化物の年代を測定したところ、約1万年以上前のものという結果がでておるぞ。



①きれいに掃除する

検出した時の状態を記録するために周囲の土をきれいに削り、石についた泥なども取り除きます。

そして、平面図と写真を撮ります。



②半分掘る

埋まっている部分がどのような状態であったかを記録するために、半分だけ掘って断面を観察します。きれいに掃除して断面図と写真を撮ります。

基本的に一番上が焼けた石の層、真ん中が灰と炭の混じった層、一番下に配石（大きい石）があります。



③残り半分を掘る

残りの半分も掘ります。

配石がある場合はそれを残して掘ります。掘れたら、きれいに掃除して配石の出土状況を平面図と写真に記録します。なお、中野山遺跡では半数以上の集石炉で底から大きめの石（底面配石）が見つかっています。底面配石は高温を保つために入れられたようです。



④配石の下まで掘る

配石を記録したら、石の下がどうなっているのかを確認します。この状態も図面と写真に記録します。このあと、穴の外側も断ち割って外側がどの程度焼けているかも確認します。

※炭化物の採取

掘削の途中で状態の良い炭化物があれば出土位置などを記録した上で採取します。これ以外に土器などが出土した場合も図面等に記録します。なお、焼け石や底面配石も持ち帰り、重量・石材・形状などを詳しく調べます。

以上で、集石炉の基本的な掘りかたの紹介はおしまいです。

とても、くわしく調べるのね。

集石炉は、穴の中に焼いた石と食べ物を入れて蒸し焼きにするために使われたと考えられているそうね。今でもトンガの「ウム」、フィジーの「ロボ」、ニュージーランドの「ハンギ」など、似たような炉と石を使った蒸し焼き料理があるそうね。興味のある人は、インターネットで検索するといろいろと出てくるわよ。



アアリーちゃん

問い合わせ先

〒512-8064 三重県四日市市伊坂町 126-1

三重県埋蔵文化財センター 調査研究 3 課四日市整理所

電話番号：059-363-3195／ファックス：059-363-3196

e-mail：maibun@pref.mie.jp